

# 女性視点で伸びやかに 牛にもやさしい肥育を追求



ここで働く12名のうち7名が10~20代の女性。みな自分が担当する牛たちに愛着を持ち、イキイキと世話をしている

「美味しい和牛」は快適な環境から。最新の設備を備えた牛舎は、女性たちの笑顔があふれ、これまでの肥育施設のイメージを覆すものだった。今回は、牛舎建築にも携わる肥育のプロフェッショナルに聞いた。

## プラスαの肥育にこだわり オートメート化を実現



「クリーンネスや安全性、バイオセキュリティにも配慮しており、「3K」のイメージはもはや皆無。誇りをもって働ける環境です」と話す小野良博氏



牛房に付けられた緩やかな傾斜とベルトコンベアにより、糞は自動で集積される。集めた糞は乾燥させ、完熟堆肥として地元農家などに還元。無駄のない循環型システムを確立している

石巻市桃生町。おいしい水と空気、そして良質な稲わらが手に入るこの地に、最新の牛舎を備えた「うしちゃんセンター」石巻太田がある。3haほどの敷地に立つ約2400㎡の真新しい牛舎。この中で育てられているのは、1000頭の黒毛和牛である。同ファームの牛舎建築にも携わってきた肥育のスペシャリストである小野良博氏は、「ここは今まで造ってきた牛舎の集大成となる肥育施設」と胸を張る。

黒毛和牛は、他の牛に比べて個体管理が重要で、育成に技術を要する。だから個体管理というプラスαの部分に十分な時間を割けるよう、この施設では給餌や排泄物の処理など、機械に任せられる部分をオートメーション化。二頭頭をオートメーション化。二頭頭に目を配り、毎日、牛の目や肌ツヤなどの状態を見極めながら、目指す肉質に合わせて飼料を供給。すべての牛にじっくり向き合い、長い時間をかけて、大切に育てあげる。先進的な設備を導入したことで生まれた時間は、働き手に「職人」としての自信と誇りをも育んでいる。

ふと作業スタッフに目をやると、気づくことがある。女性の姿が多いことだ。「機械化で仕事の負担を軽減しているのだから働きやすく、女性でも和牛職人を目指すことができる。それに、個体管理には細やかな気配りができる女性の力が必要」と小野氏は語る。

牛たちが20ヶ月間を過ごす牛房は、広く清潔に保たれている。牛にとってもゆったりと暮らせるストレスフリーな環境だ。ここにスタッフによる愛情たっぷりのプラスαの肥育が加わり、美味なる肉質が生み出されるのだ。



自動給餌の配合飼料のほか、一頭一頭の状態を見極め単味のエサを与える。これもプラスαの個体管理の一つ



牛房は広さも十分。3頭ずつが入れられストレスなく暮らしている

うしちゃんファーム ブランド牛提供店

### 和牛・マエストロさとう

◎仙台市青葉区国分町3-8-10 我妻ビル1F  
☎022-796-2914  
◎11:30~14:00, 17:00~23:00(土・日曜、祝日16:00~)  
※LO各30分前 ◎無休

### 創作横石 三陸金華和牛

◎仙台市青葉区国分町2-5-1 ゴック参善館1F  
☎022-302-4129 ◎18:00~24:00(完全予約制) ◎日曜

うしちゃんファーム  
◎石巻市桃生町中津山字四軒前1-2  
☎0225-76-2179

うしちゃんファーム 検索